

【参考資料 門真市第4期地域福祉計画進捗状況シート（全体）】

基本目標Ⅰ. 地域福祉のコミュニティづくり（人づくり・地域づくり）

【施策の方向性】  
 地域にはさまざまな人が暮らしており、それぞれが多様な課題を抱えています。地域にある課題を他人事ではなく自分にも関わることでとらえることで、お互いを理解し、「困ったときはお互いさま」の気持ちで支え合うことができます。地域福祉について触れることのできる機会の拡充と、効果的な情報の発信により、市民一人ひとりの福祉に対する理解や認識を深め、地域の福祉力を高めていきます。

基本施策1. 誰もが理解しあい支え合える意識づくり

取組項目	取組内容	計画書ページ	担当課等	令和4年度取組状況・実績等	課題・改善点	今後の方針	評価
身近な地域での福祉教育・福祉学習機会の拡充	児童・生徒に対する福祉に関する学習の機会の充実	44	学校教育課	中学校の生徒会と障がい者福祉施設との交流会を実施した。障がい者福祉施設においても、職場体験学習を実施した。	福祉教育・福祉学習に関する学校の理解推進と、地域福祉関係機関との連携推進が課題。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
	認知症サポーター養成講座の実施	44	高齢福祉課	認知症サポーター養成講座19回実施 278人養成	サポーター養成講座を実施してくれるキャラバン・メイトの管理（現状の把握含む）。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
	市民が障がいについて理解する機会づくり	44	障がい福祉課	障がい者週間ふれあいキャンペーンを12月3日～9日の障がい者週間に合わせて実施。 門真市役所別館玄関ロビー、市民プラザ、イオン古川橋駅前店の3カ所で障がい理解啓発物等（障がい者週間PRチラシ、ヘルプマークチラシ、障がい特性チラシ、大阪府コロナ関連手話ハンドブック、自主製品等）の配架。 門真市役所別館玄関ロビーで自主製品の販売、障がい疑似体験を実施。	引き続きより多くの市民への啓発活動を目指す	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
	社会福祉協議会が実施する福祉教育の推進	44	社会福祉協議会 学校教育課	小中学生を対象に52回の体験型の福祉教育を推進を図った。障がいを持つ当事者の講話や点字や手話などの体験学習を通じて、障がい者理解の啓発を行うことができた。 市内小・中学校9校において、社会福祉協議会が実施する福祉教育を実施した。	令和3年度の実施回数が22回で大幅に増加したこと、10月から12月にかけて学校からの依頼が集中したために、対応する当事者やスタッフの確保に苦慮することがあった。改善点として学校の主体的な福祉教育の実施を推進している。 外部講師を招聘しての福祉教育を実施する教科や時間数の確保が課題	1：拡大 2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる A：目標達成に向けて順調に進んでいる
地域での福祉活動を促進するための意識啓発	福祉課題（障がい・認知症・ひきこもりなど）に係る意識啓発	44	福祉政策課	民生委員定例会にて、ろうあ部会による講演や高齢福祉課による現状課題報告や制度についての研修を実施。各部会においても、障がい福祉課による研修などを実施し、積極的に意識啓発に取り組んだ。	令和4年度には実施することができなかったひきこもりに関する研修については、令和5年度に実施することができた。今後も意識啓発となる研修等を継続する。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
			高齢福祉課	認知症サポーター養成講座の開催や、ゆめ伴プロジェクトとの協働による周知・啓発活動を実施。	市民周知の効果的な方法を検討する。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
			障がい福祉課	障がい者週間ふれあいキャンペーンによる啓発活動	引き続きより多くの市民への啓発活動を目指す	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
			学校教育課	生徒指導や支援教育を担当する教職員向けに、精神障がい当事者の方を講師に迎えた研修を実施した。	教職員が児童・生徒に指導するにあたって非常に有益であったが、児童・生徒の福祉活動への直接的な意識啓発が課題である。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
社会福祉協議会と連携した取組の推進	44	福祉政策課	門真市社会福祉協議会が実施する小地域ネットワーク活動に対する支援を通じて、地域での福祉活動を推進した。	コロナ禍で影響を受けた市民生活や地域福祉活動について、従来の状態に戻していくことに留まらず、新たな活動を生み出す視点を持って地域福祉活動を推進していく必要がある。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる	
わかりやすくアクセスしやすいホームページの作成	44	魅力発信課	アクセシビリティやスマートフォンに対応した市ホームページのリニューアル作業を行い、令和元年10月31日から稼働している。	市ホームページの整理を随時行い、利用者にとって見やすいホームページ作成・管理を進める。また、令和5年11月に市ホームページリニューアルし、より見やすいホームページになるよう作業を行う。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる	
		魅力発信課	市公式Twitter、市公式LINE、市公式Instagram、市公式YouTubeにおいて内容を随時更新し、情報提供をしている。	SNSにより発信する情報は異なるが、今後も継続して市の情報を発信していく。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる	
		魅力発信課	多言語配信ができるカタログポケットを使用して、広報紙の配信を行っている。	カタログポケットをお知らせするチラシなどの配架により、多言語配信サービスの認知度向上をめざす。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる	
		子育て支援課	必要な情報がリアルタイムで伝わるよう、管理権限を付与している関係各課へ情報の見直しとともに、イベントカレンダーやお知らせ（新着情報）機能の積極的な活用を依頼し、適宜修正を行った。また、民生委員の研修に子育て支援課職員が参加し、すくすくひよこナビについての紹介を行った。 閲覧件数：226,329件	すくすくひよこナビの認知度をあげるため、市が実施する子育て支援に関する講習会等において、ひよこナビの周知を行う。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる	

【参考資料 門真市第4期地域福祉計画進捗状況シート（全体）】

基本目標Ⅰ. 地域福祉のコミュニティづくり（人づくり・地域づくり）

【施策の方向性】  
 地域にはさまざまな人が暮らしており、それぞれが多様な課題を抱えています。地域にある課題を他人事ではなく自分にも関わることとしてとらえることで、お互いを理解し、「困ったときはお互いさま」の気持ちで支え合うことができます。地域福祉について触れることのできる機会の拡充と、効果的な情報の発信により、市民一人ひとりの福祉に対する理解や認識を深め、地域の福祉力を高めていきたいと思います。

基本施策1. 誰もが理解しあい支え合える意識づくり

取組項目	取組内容	計画書ページ	担当課等	令和4年度取組状況・実績等	課題・改善点	今後の方針	評価
地域福祉の推進につながる情報の発信	適切な福祉サービスを利用するためのさまざまな媒体を活用した情報発信	44	魅力発信課	毎月発行する広報かどまの内容を読み上げた音声をカセットテープやCDに録音したものを声の広報として希望者に郵送している。（発行本数は月50本） 毎月発行する広報かどまの内容を抜粋（7000字以内）し作成した点字冊子を点字広報として希望者に郵送している。（発行部数は月20部）	声の広報については、カセットテープ及びCDでの発行を継続する。 点字広報については、他課との連携により市民からの意見などを取り入れて情報を選択する。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
			高齢福祉課	広報紙やホームページの活用や、地域包括支援センターによる各種教室の実施・ネットワークの構築により情報を発信している。	各種教室において新しい参加者を増やしていく。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
			障がい福祉課	福祉のしおりを作成しホームページにも掲載しています。点字版と音声版も作成しております。依頼があれば民生委員や支援学校に説明を行っています。	福祉サービスも多種多様なため、現在の周知方法になっている。どのような媒体を利用すれば広く情報を発信できるかが課題である。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
			福祉政策課	門真市公式LINEの相談機能の、「福祉・高齢相談」メニュー中、「福祉の何でも相談」を選択すると、コミュニティーソーシャルワーカーへの相談予約が可能になるようにした。	利用者が気軽に相談を希望できるよう、予約可能な相談分類の拡充や、内容の充実を図る必要がある。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
			子育て支援課	①門真で子育てをする家庭が受けられるサービス等をまとめた『かどま子育て支援マップ』を発行し、市内公共施設等で配布した。 ②地域子育て支援センター「ひよこる〜む」がTwitterで、イベント情報や子供と遊べる手遊び等の動画、市内各園のおたより（園から提供のあるものに限る）等を発信。 ③民生委員の研修に子育て支援課職員が参加し、子育て支援事業について紹介を行った。 ④市民プラザで行われたスポーツレクリエーションフェスティバルで、オレンジリボンキャンペーンの周知・啓発を行った。	②さまざまな子育て支援に関する情報収集を行うとともに、Twitterを用いて広く発信していく。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる

【参考資料 門真市第4期地域福祉計画進捗状況シート（全体）】

基本目標Ⅰ. 地域福祉のコミュニティづくり（人づくり・地域づくり）

基本施策2. 地域で活躍する人づくり

【施策の方向性】  
いきいきとしたまちづくりのためには、市民一人ひとりが地域を支える存在として主体的に活動できることが必要です。地域で専門的な活動をしている人やさまざまな事業所、地域住民など、多様な主体が自分の知識や技術、趣味や経験を生かすことで、それぞれが地域福祉の担い手となり、ともに課題を解決していくことができる地域をめざします。  
また、日ごろから地域のさまざまな集まりや催し事に参加することで、顔の見えるつながりが広がり、地域住民の主体的な交流活動が広がります。市民が気軽に集える場をつくり、交流の機会を拡充します。住民同士の交流が広がるこ

取組項目	取組内容	計画書ページ	担当課等	令和4年度取組状況・実績等	課題・改善点	今後の方針	評価
地域福祉を担う人材の発掘・育成	ファミリー・サポート・センターの相互支援活動の実施	46	子育て支援課	令和元年以降、3年ぶりに協会の員獲得のための講習会を実施。新規協会員として2名登録。 【令和5年3月31日時点会員数】 協会員：113名 依頼会員：344名 両方会員：12名 【令和4年度活動件数】305件	新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ活動件数が回復の方向に向かっているが、依頼会員の人数と比較し、協会員の人数が少ない傾向にあるため、講習会の参加人数を増やせるよう、周知の時期や方法を工夫する。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
	中学校区単位の「地域会議」の活動支援	46	地域政策課	令和5年3月に第二中学校区において設立した地域会議をもって、市内6校区すべてに地域会議が設立した。	地域活動の担い手や人材の不足	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
	シルバー人材センターへの活動支援	46	産業振興課	公益社団法人門真市シルバー人材センターにおいては、「高齢者等の雇用の安定の等に関する法律」に基づき、高齢者に対して就労機会を提供した。また、「スプリングカーニバル」などのイベントを開催するとともに、地域の各種団体とも連携し、市内外で開催される多くのイベントにも参画した。 会員数：1,636人 就業実人員：1,224人	前年度と比較し、会員数及び就業実人員とも増加している。就労機会の増加に際し、事故やトラブルも想定されることから、より一層の安全・適正就業を推進する必要がある。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
	民生委員・児童委員の活動支援	46	福祉政策課	新たに民生委員になってもらえる人を確保するため、市ホームページにて、民生委員の仕事内容や制度内容について正しい情報を提供するとともに、民生委員をやったよかったという仕事のやりがいや民生委員活動へのポジティブなイメージとなるように「現役民生委員の声」として公開した。	令和4年12月の一斉改選では欠員32名となった。全国的にも民生委員の担い手確保については課題となっているが、門真市においても担い手確保につながるよう、引き続きホームページや市役所内インフォメーションなどを利用した情報発信を継続する。	2：継続	B：取組が遅延している
	学校と地域の連携・協力による、学校の環境整備や講演会、読み聞かせなどの活動	46	生涯学習課	令和4年度に、合計24名の地域学校協働活動推進員の委嘱を行った。推進員を中心に、絵本の読み聞かせや学校及び周辺の環境整備、講演会や防災教室の実施などを学校と地域が連携・協力して、それぞれの地域の実情に応じた取組を行った。また実施にあたっては、地域ボランティアなどにご協力いただき、それぞれの趣味や経験、技術を活かすことができる機会を創出した。	各校区において多様な事業が実施されており、それら事業を通じた地域コミュニティの醸成や学びの場の創出、地域住民の趣味や経験、技術を活かせる場の創出につながっている。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
	子どもの未来応援団員の養成	46	こども政策課	コロナ禍の影響もあり令和4年度の新規登録者数は54名に留まった。	事業の進捗に合わせて養成研修内容のブラッシュアップが必要。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
	社会福祉協議会が運営するボランティアセンターにおけるボランティア活動のきっかけづくり	46	社会福祉協議会	手話これから講座や傾聴ボランティア養成講座など5つの養成講座を開催し、のべ92人の参加者を得ることができた。	コロナ禍での開催であったが、開催日程を感染者数の少ない時期に合わせて開催した。また申込についても市民の利便性を高めるため、QRコードからの申込も可能にし、申込手段の多様性を高めた。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
「歩こうよ・歩こうね」運動の実施	46	高齢福祉課	門真市内に居住している60歳以上の高齢者が各自の体力に合わせて距離又は時間を設定し、気軽に参加できる運動を実施。 完歩者2,592名	高齢者にとって足腰の弱りが老いを加速していくことが統計的にも示されており、いつでもどこでも、好きな時間と場所を利用し手軽に取り組める「歩こうよ・歩こうね」運動を実施することで高齢者の健康維持及び増進を図る。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる	
保健福祉センターのふれあいコーナーの活用	46	障がい福祉課	門真市手をつなぐ育成会が運営実施	引き続き障がい児(者)への理解促進及び地域でのふれあい及び支援の促進のため、門真市手をつなぐ育成会による運営実施を継続する。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる	
まつり等の実施でコミュニティ活動の活性化及び賑わいの創出		46	地域政策課	新型コロナウイルス感染症が流行する中、大阪府等からの要請やガイドラインを遵守しながら、人数制限や優先予約制を採用する等、感染症防止策を講じながらふるさと門真まつりを実施した。	実行委員会参画団体の高齢化に伴う担い手や人材の不足	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
			都市政策課	賑わいの創出については、地域の事業者等がやりたいことを実現できる広場「TRIAL PARK（トライアルパーク）」にて、定期的にマルシェ等のイベントを開催した。	門真市駅周辺は大企業の業務地が数多くあり、通勤の乗降客も多いものの、乗降客は駅周辺エリアに滞在することなく、駅周辺のまちの賑わいは薄れている状況が課題と捉えている。多様な人の流入を持続的に誘発する仕組みづくりを引き続き進めていき、まちの賑わいを創出していく必要がある。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
公立こども園・公立保育所等における園庭開放		46	保育幼稚園課	公立認定こども園実施日数 151日 参加人数 649名 公立保育所実施日数 24日 参加人数 108名	公立保育所は空き部屋がなく、園庭開放のみ実施のため雨天時や暑い時期の実施が難しい。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる

【参考資料 門真市第4期地域福祉計画進捗状況シート（全体）】

基本目標Ⅰ. 地域福祉のコミュニティづくり（人づくり・地域づくり）

基本施策2. 地域で活躍する人づくり

【施策の方向性】  
いきいきとしたまちづくりのためには、市民一人ひとりが地域を支える存在として主体的に活動できることが必要です。地域で専門的な活動をしている人やさまざまな事業所、地域住民など、多様な主体が自分の知識や技術、趣味や経験を生かすことで、それぞれが地域福祉の担い手となり、ともに課題を解決していくことができる地域をめざします。  
また、日ごろから地域のさまざまな集まりや催し事に参加することで、顔の見えるつながりが広がり、地域住民の主体的な交流活動が広がります。市民が気軽に集える場をつくり、交流の機会を拡充します。住民同士の交流が広がるこ

取組項目	取組内容	計画書ページ	担当課等	令和4年度取組状況・実績等	課題・改善点	今後の方針	評価	
気軽に集える場の創出 (交流機会の拡大や社会参加支援)	校区体育祭の実施補助やスポーツ・レクリエーション事業によるスポーツの機会拡充	46	生涯学習課	小学校校区単位で実施する校区体育祭事業に対して、補助金の交付を行った。 また、日常的にスポーツをしている人から、普段運動には縁のない人まで、市民の誰もがそれぞれのライフステージに応じたスポーツ・レクリエーション活動に参加する機会を確保することで、運動を通じた市民の健康づくりを推進するため、参加者の競技力を高めることに資する競技大会である「門真市民総合体育大会」や、スポーツレクリエーション活動のきっかけづくりとして開催する「かどま市スポーツ・レクリエーションフェスティバル」などのレクリエーションイベントなどを実施する「スポーツレクリエーション事業」を行った。	・校区体育祭については、校区体育祭実行委員会において、企画運営の中心的役割を果たすスポーツ推進委員が、各校区の体育祭で実施するプログラム等について情報交換を行い、内容の充実を図ることができた。校区住民が気軽に参加でき、体力づくりとともに親睦を深めることが出来る校区体育祭は地域コミュニティの活性化に重要な役割を果たすことから、未実施校区への働きかけが必要。 ・市民総合体育大会については、各主管の自主的な周知方法の徹底により、多くの市民の参加を得ることができた。 ・スポーツ・レクリエーションフェスティバルでは、パナソニックパナソニック（パネーボール）の教室や、誰もが気軽に参加することができるニュースポーツの体験教室を実施し、子どもから高齢者まで幅広い世代が楽しめる内容となった。なお、元年度から新たに年間を通じてスポーツレクリエーションにかかるとしてスポーツ教室を開催した結果、参加人数の増加を図ることができた。今後は、関係団体と企業と連携を密にし、より充実した内容で開催する必要性を感じている。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる	
	門真市地域子育て支援センター「ひよこる〜む」、なかよし広場での遊びの場の提供	46	子育て支援課	常時開設の遊び場に加え、各施設において特色ある取り組みを実施。 【門真市地域子育て支援センター「ひよこる〜む」】 0歳児の月齢別イベントをはじめ、各種親子が交流できるプログラムを実施 また、来館できない親子も参加できるようZoomを用いたプログラムも実施 <利用親子組数（令和5年3月31日時点）> 3,551組 【なかよし広場】 広場における親子の交流を促進する取り組みとして、市内の民間・公立の保育園等から職員が出張して、手遊びなどを実施するプログラムを提供した。 <利用親子組数（令和5年3月31日時点）> 1,631組	新型コロナウイルス感染症の影響で、制限等もあったため、ここ近年利用組数は、減少傾向にあったが、緩和されたことにより、利用組数が増えるよう周知や親子が気軽に参加できるプログラム等を実施していく必要がある。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる	
	地域における子育てサロンでの交流活動の推進		46	社会福祉協議会	校区福祉委員会において、4か所で子育てサロン活動を開催し、年間のべ14回のサロンを開催し地域で子育て中の親子の居場所づくりを担った。	開催場所は概ね自治会館であるため、コロナ感染対策で開催回数に一部の制限が生じたが、徐々にコロナ禍前の状況に戻りつつある。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
				福祉政策課	令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視しながら、参加人数制限などの感染対策を講じた上で、民生委員各地区における子育てサロン、主任児童委員によるびびよクラブや親子人形劇等を実施することができた。	現在は広報紙による周知を行っているが、子育て世帯対象にはTwitter等のSNSでの情報発信についても検討を行う。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
	公民連携子どもの居場所「子どもLOBBY」の提供		46	子ども政策課	令和4年度は子どもの居場所の時間帯に1961人の来所があり認知度が向上してきているのが伺える。また、11名の不登校児童支援を行い、毎週日曜日に開催しているキャリア教育イベントは664名の受講があった。	水曜日を休館日になっているが、水曜日は子どもの下校が早く来所したいとの意見が多いことから休館日の変更を検討する。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
	エリアリノベーションによる地元企業や地域住民など多様な人々が出会い交流できる場の創出		46	都市政策課	企業や地元事業者等が参画する『エリアリノベーション推進会議』において、エリア価値向上のための事業推進目的に、将来プレジジョンの検討やエリアマネジメントの仕組みについて議論した。 また、8月には焚火を囲んで自分のやりたいことを語り合う『カドマノカマド』を開催。市営住宅横の旧駐車場を利用して「地域のなりかやりたい人たちがトライできる場所『トライアルパーク』」を開設。 『カドマノカマド』参加者：53名	将来的なエリアマネジ組織の自立的運営、地域プレイヤーが参画できる体制づくりを行うことが課題である。 各プロジェクトの事業化・実装・空き家活用事業などのスモールエリア形成の推進も行うエリアへの期待値向上、新規プレイヤーの取り込み、ものづくり拠点事業課の検討を進めていく。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
地域整備課				近畿大学の大学生からの文化住宅リノベーション提案	耐震改修に莫大な費用がかかり、現実的ではない。補助金を利用できないか今後検討する。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる	

【参考資料 門真市第4期地域福祉計画進捗状況シート（全体）】

基本目標Ⅰ. 地域福祉のコミュニティづくり（人づくり・地域づくり）

基本施策3. 地域福祉活動の促進

【施策の方向性】  
 地域でのさまざまな課題を解決するためには、行政や個人の取組だけでなく、NPO、ボランティア、コミュニティソーシャルワーカー（CSW）、社会福祉法人などさまざまな主体による取組が必要です。  
 地域の福祉力を高めるために、地域で活動している団体の活動内容に関する情報を広く発信し、市民の地域活動への参加を促進します。  
 市民が気軽にボランティア活動に参加できるよう、ボランティア団体、NPO法人など活動団体の育成・支援に取り組みます。また、それぞれの活動団体が地域の現状・課題に合った取組ができるよう、活動場所の提供や相談支援などにより活動を支援します。

取組項目	取組内容	計画書ページ	担当課等	令和4年度取組状況・実績等	課題・改善点	今後の方針	評価	
団体への活動支援	老人クラブ連合会への活動支援	48	高齢福祉課	門真市内の老人クラブを基礎組織とし、高齢者の生きがいと健康づくりに資する活動・事業を推進しており、明るい長寿社会の実現と保健福祉の向上に寄与する。 クラブ数：113、会員数：5,685名	在宅高齢者の生活を健全で豊かなものにするため、高齢者及びその家族の福祉の増進並びに介護予防の推進を図る。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる	
	校区福祉委員による小地域ネットワーク活動の活動支援	48	福祉政策課	市社協に小地域ネットワーク活動推進事業補助金を交付し、市内15地区の校区福祉委員会による住民主体の活動を展開することにより、高齢者や障がい者（児）、子育てに支援が必要な人等が安心して生活できるよう取り組んだ。 グループ援助活動参加者数 18,632名 個別援助活動参加者数 12,066名 認知症サポーター養成講座 3回参加者数 56名 精神障がい者理解促進事業 2回参加者数 21名 小地域ネットワーク活動リーダー研修会 1回 参加者数 11名	グループ援助活動参加者については、各校区での活動内容について再度検討したり、活動の周知方法を工夫するなどして新たな参加者の取り込みを図る必要があるため、引き続き事業実施団体である社会福祉協議会と連携し、積極的な活動を促していく。個別援助活動については、現在、対象者が高齢者が大半であるため、障がい者や子育て中の親子などに対する活動についての情報提供を行うなど、多様な人が活動しやすい環境の整備に努める。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる	
	シルバー人材センターへの活動支援（再掲）	48	（再掲）	（再掲）				
	自治会、民生委員児童委員協議会、地域会議への活動支援	48	地域政策課 福祉政策課	●自治会 ・行政協力支援金 119自治会 ・校区まったり事業補助金 4校区 ・地域活性化まちづくり事業補助金 6校区 ●地域会議 ・地域会議活動補助金 5校区 ・地域会議準備会補助金 1校区 民生委員児童委員協議会について市ホームページの更新を行い、民生委員の仕事内容や制度内容についての情報発信を行っている。	自治会、地域会議ともに高齢化等により次代の担い手や人材の不足 市ホームページでの民生委員の仕事内容等の紹介だけでは、まだ活動支援となるには十分ではないため、令和5年度は市役所内でのインフォメーション等の利用など、PR活動の工夫を継続して行う。	2：継続 2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる A：目標達成に向けて順調に進んでいる	
ボランティア活動の推進	社会福祉協議会が運営するボランティアセンターにおけるボランティア活動の推進（再掲）	48	（再掲）	（再掲）				
	NPO活動の情報発信や活動支援	48	地域政策課	門真市立市民公益活動支援センターより、NPOを含めた市民公益活動に係るセミナーや助成金等の情報発信を行った。	情報発信方法や市民公益活動支援センター自体の知名度の低さ	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる	
	市民に安心して活動してもらえるよう市が保険に加入する住民活動災害補償事業	48	地域政策課	428団体が加入。 6件の傷害補償の届出あり。	事業自体の周知の不足	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる	
	認知症の方の生きがいある生活をめざす、「ゆめ伴プロジェクトin門真実行委員会」との協働による活動の推進	48	高齢福祉課	認知症の方の生きがいある生活をめざして、イベントや通いの場開催を行っている。	さらなる活動の推進をめざし、協働で活動する。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる	
身近な地域での見守り、支え合い活動の促進	救急医療情報キットの配付	48	健康増進課	民生委員児童委員等の協力や関係機関の窓口における配付及びホームページや広報紙で情報発信をする。 令和4年度の配布件数：32件 令和4年度の配布件数（累積）：8,919件	医療機関へポスターの掲示を依頼し、本制度に係る取り組みの周知を行う。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる	
	高齢者の見守りネットワークの推進	48	高齢福祉課	市内の企業と「見守りに関する協定」の締結を行い、支援が必要な高齢者を早期に発見し、支援につなげる見守り体制の強化を図ってきた。 令和5年3月31日時点で、22団体と本協定を締結。	協定締結企業との情報共有及び意見交換会の開催が定期的に行っていない。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる	
	校区福祉委員による小地域ネットワーク活動の拡充	48	福祉政策課	市社協に小地域ネットワーク活動推進事業補助金を交付し、市内15地区の校区福祉委員会による住民主体の活動を展開することにより、高齢者や障がい者（児）、子育てに支援が必要な人等が安心して生活できるよう取り組んだ。 グループ援助活動参加者数 18,632名 個別援助活動参加者数 12,066名 認知症サポーター養成講座 3回参加者数 56名 精神障がい者理解促進事業 2回参加者数 21名 小地域ネットワーク活動リーダー研修会 1回 参加者数 11名	グループ援助活動参加者については、各校区での活動内容について再度検討したり、活動の周知方法を工夫するなどして新たな参加者の取り込みを図る必要があるため、引き続き事業実施団体である社会福祉協議会と連携し、積極的な活動を促していく。個別援助活動については、現在、対象者が高齢者が大半であるため、障がい者や子育て中の親子などに対する活動についての情報提供を行うなど、多様な人が活動しやすい環境の整備に努める。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる	

【参考資料 門真市第4期地域福祉計画進捗状況シート（全体）】

基本目標Ⅰ. 地域福祉のコミュニティづくり（人づくり・地域づくり）

基本施策3. 地域福祉活動の促進

【施策の方向性】  
 地域でのさまざまな課題を解決するためには、行政や個人の取組だけでなく、NPO、ボランティア、コミュニティソーシャルワーカー（CSW）、社会福祉法人などさまざまな主体による取組が必要です。  
 地域の福祉力を高めるために、地域で活動している団体の活動内容に関する情報を広く発信し、市民の地域活動への参加を促進します。  
 市民が気軽にボランティア活動に参加できるよう、ボランティア団体、NPO法人など活動団体の育成・支援に取り組みます。また、それぞれの活動団体が地域の現状・課題に合った取組ができるよう、活動場所の提供や相談支援などにより活動を支援します。

取組項目	取組内容	計画書ページ	担当課等	令和4年度取組状況・実績等	課題・改善点	今後の方針	評価
	民生委員・児童委員による見守りや相談活動の実施（再掲）	48	（再掲）	（再掲）			
多様な主体による地域貢献活動の創出	コミュニティソーシャルワーカー（CSW）による地域課題の解決に向けた新たな活動の創出	48	福祉政策課	8050問題やひきこもり、ひとり親家庭の親子など、さまざまな課題を抱えた要支援者に対し、課題整理や関係機関との連携による支援、引き継ぎ等、専門的な相談支援を行った。 また、ケース会議や地域福祉の担い手で構成する地域福祉連絡会を開催し、要支援者に対する見守り・相談・つなぎのセーフティネットづくりに努めた。	本事業の相談者の多くが生活費に関する相談などの生活困窮を背景とした課題を抱えており、本事業と同様に社会福祉協議会に委託している生活困窮者自立相談支援事業との連携を図ることで、要支援者の包括的な支援が可能となり、円滑な課題解決を図ることができた。 課題としては、医療や各種福祉サービスに繋がっていないか、病識をお持ちでない相談者への対応や、問題が複雑化している、CSWのみの関わりでは対応が困難な事例が発生しているため、関係機関と普段から顔の見える関係性をつくっていく必要性が高まっていることがある。 また、長引くコロナ禍の影響で、稼働年齢層からの相談が急増している。生活困窮に関する相談については、特に緊急性の高いものが多く、CSWに相談があった時点で相談者自身の力では改善が困難な状態になっていることが多く、従来の支援の枠組みだけでは対応できない状況が生まれてきている。 行政機関や医療機関などの関係機関等とのさらなる連携を図り、要支援者が必要とする支援を迅速に提供できる体制づくりを進めることで、課題解決に努める。 また、相談者に対し、より早い段階でCSWに相談してもらえよう、本事業の周知をより一層充実させ、福祉のなんでも相談員としての認知度の向上を図ることで、より多くの市民に対する支援を行っていく。 加えて、地域の状況をよく把握している民生委員や校区福祉委員、地域会議や地域の子育てサロンといった社会資源等も含めて、地域のネットワークを強めていくことで、支援を必要とする人を少しでも早く把握できる環境づくりを進めていきたい。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
	市民公益活動支援センターによるNPO法人の新たな事業立ち上げ、事業拡大支援	48	地域政策課	1法人が法人設立認証を受けた。	高齢化、新型コロナウイルスの影響から事業再開が難しく、活動休止や解散を行う団体が増加している。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
	社会福祉法人による「地域における公益的な取組」の推進	48	福祉政策課	市が所管する社会福祉法人について、取組状況の確認を行うとともに、好事例などの情報提供を行っている。	引き続き、法人が実施する地域における公益的な取組を把握し、法人から個別の相談があった際には地域の実情にあった取組となるよう支援する。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
	包括連携協定を締結している大学・企業の活用	48	地域政策課	5大学・3企業と包括連携協定を締結しており、令和4年度は42事業実施。	大学・企業と市の相互ニーズの把握等	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる

【参考資料 門真市第4期地域福祉計画進捗状況シート（全体）】

基本目標Ⅱ. 包括的な支援体制づくり

基本施策4. 組織横断的な支援体制の整備

【施策の方向性】  
 生活の中で課題を抱える世帯では、ひきこもり、8050問題、ヤングケアラーなど、さまざまな課題を複合的に抱えているケースが多く、また、現行の制度では対応が困難など、いわゆる「制度の狭間」のケースもあります。  
 複雑化・複合化した課題や「制度の狭間」の課題を抱える個人や世帯に対しては、アウトリーチによる早期発見やそれぞれの分野の専門職による個別の支援、また地域住民やボランティアなども関わり、課題ごとの柔軟な支援が必要です。福祉の分野を超えて、市役所内の関係各課・専門職・地域住民・関係機関が連携し、協働することで、あらゆる困りごとを受け止め、対応できるような支援体制づくりを進めます。  
 また、支援を拒否する人やすぐに解決することが難しく、時間を要する場合は、つながり続けることをめざす伴走型の支援が求められていることから、関わり続ける支援を行います。

取組項目	取組内容	計画書ページ	担当課等	令和4年度取組状況・実績等	課題・改善点	今後の方針	評価
	分野を問わない福祉の総合相談窓口であるコミュニティソーシャルワーカー(CSW)の相談支援機能の向上	50	福祉政策課	8050問題やひきこもり、ひとり親家庭の親子など、さまざまな課題を抱えた要支援者に対し、課題整理や関係機関との連携による支援、引き継ぎ等、専門的な相談支援を行った。 また、ケース会議や地域福祉の担い手で構成する地域福祉連絡会を開催し、要支援者に対する見守り・相談・つなぎのセーフティネットづくりに努めた。	本事業の相談者の多くが生活費に関する相談などの生活困窮を背景とした課題を抱えており、本事業と同様に社会福祉協議会に委託している生活困窮者自立相談支援事業との連携を図ることで、要支援者の包括的な支援が可能となり、円滑な課題解決を図ることができた。 課題としては、医療や各種福祉サービスに繋がっていない不慣れや、病識をお持ちでない相談者への対応や、問題が複合化している、CSWのみの関わりでは対応が困難な事例が発生しているため、関係機関と普段から顔の見える関係性をつくっていく必要性が高まっていることである。 また、長引くコロナ禍の影響で、稼働年齢層からの相談が急増している。生活困窮に関する相談については、特に緊急性の高いものが多く、CSWに相談があった時点で相談者自身の力では改善が困難な状態になっていることが多く、従来の支援の枠組みだけでは対応できない状況が生まれてきている。 行政機関や医療機関などの関係機関等とのさらなる連携を図り、要支援者が必要とする支援を迅速に提供できる体制づくりを進めることで、課題解決に努める。 また、相談者に対し、より早い段階でCSWに相談してもらえるよう、本事業の周知をより一層充実させ、福祉のなんでも相談員としての認知度の向上を図ることで、より多くの市民に対する支援を行っていく。 加えて、地域の状況をよく把握している民生委員や校区福祉委員、地域会議や地域の子育てサロンといった社会資源等も含めて、地域のネットワークを強めていくことで、支援を必要とする人を少しでも早く把握できる環境づくりを進めていきたい。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
相談対応力の向上	子育て世代包括支援センター「ひよこテラス」	50	子育て支援課	【利用者支援事業（基本型）】 相談者の悩みに対して適切な支援につなげられるよう、相談票の見直しや定例会を通じての情報共有等を実施した。	相談者をより適切な支援につなげられるよう、相談員のさらなるスキルアップを実施していくとともに、関係機関との連携強化を図る。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
	子育て世代包括支援センター「ひよこテラス」	50	健康増進課	保健師・助産師等の専門職が、妊娠届出時に全数面接を行い相談内容を把握して適切な支援につなぐたり、様々な関係機関と協力しながら妊娠前から子育て期にわたるまで切れ目なく支援を行った。	国の方針として、令和6年度から、子ども家庭総合支援拠点（児童福祉）と子育て世代包括支援センター（母子保健）の設立の意義や機能を維持したうえで組織を見直し、全ての妊産婦、子育て世帯、子どもへ一体的相談支援を行う機能を有する機関（子ども家庭センター）の設置に努めることとされていることに伴い、新たな体制にむけて検討を行っていく。	3：改善	B：取組が遅延している
	障がい者基幹相談支援センター	50	障がい福祉課	門真市共生福祉会に業務委託。門真市障がい者地域協議会をはじめとする関係機関とのネットワーク構築会議等の出席及び開催回数は156回、ネットワークを活用し、障がい児（者）の支援を実施した延べ人数は812人であった。	引き続き、地域における相談支援の中核的な役割を担う機関として、業務の充実及び地域の相談支援体制の強化に取り組んでいく。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
	子どもの未来応援チーム	50	子ども政策課	子どもの貧困対策事業として、「子どもの未来応援ネットワーク事業」を平成29年10月から実施し、支援が必要な子ども等の発見から支援までトータルに対応できるネットワークを市民・企業等と構築している。令和4年度に新たに61世帯の支援に着手し家庭環境を改善に取り組んでいる。	「子どもの未来応援団員」登録者数が1500名を超え、情報誌で「子ども食堂」や「宿題カフェ」などの活動を周知したことにより、子どもの居場所で見守りを行う応援団員が増加したこと、「子どもの未来応援チーム」に提供される情報も増加した。一方で、コロナ禍においては応援団員からの情報提供数が激減したことから、コロナ禍にも対応できる新たな情報収集方法が必要。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
	発達相談支援事業（子ども発達支援センター）	50	子ども発達支援センター	0歳から18歳未満の子どもの発達に不安を抱える保護者に対して、臨床心理士・公認心理師や教員OB、保育士が相談を受け、子どもの特性に応じた支援策について助言するとともに、必要に応じて各関係機関やサービスにつなげたことにより、保護者の安心感や子どもの安定した生活につながっている。 令和4年度の相談件数は、3年度より73件少ない204件となり減少しているが、引き続き、発達に課題を持つ児童・生徒とその保護者の不安に寄り添いながら、各関係機関等とも連携しつつ、適切な相談対応に努める必要がある。	発達障がいに対する社会的認知の広がりや、保育園、幼稚園、学校等における発達支援の充実に伴い、子どもの発達に対して不安を抱く保護者は増加している。 今後は、中学校卒業後の児童の進学や就業に関する相談体制の充実や、関係機関とのより緊密な連携を図りながら地域や保護者へ情報発信を進める必要があると考えられる。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
	地域包括支援センター	50	高齢福祉課	各地域包括支援センターで市民からの総合相談を実施。 適切な窓口へのつなぎや、相談内容の解決目指している。	多くの課題を抱えているケースが非常に多く、関係機関との連携が必要不可欠であるが、それぞれの関係機関が把握している情報を共有するのに手間がかかっている。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
	女性サポートステーションWESS	50	人権市民相談課	女性のための相談、就労相談ともに、相談者からの相談内容を包括的に受け止め、必要に応じ、関係機関等と連携を図りながら、適正な支援を行った。 相談件数：女性のための相談283件、就労相談145件	複雑な相談ケース事例も見られるため、関係機関等との連携・情報共有の更なる強化が必要である。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
・市役所内の関係各課が連携し、課題解決を図るための仕組みづくりを検討 ・さまざまな相談支援機関における情報共有や連携に向けた取組 ・縦割り型の組織では解決できない複雑化・複合化した課題を関係機関が連携して包括的に取り組む	子育て支援課		情報共有や相互の支援手法を学ぶ機会を設けた。健康増進課とは特に密に連携を図り、令和4年度より毎月1回ケース会議を行っている。	引き続き、市役所内の関係各課が連携し、課題解決を図るための仕組みづくりの検討と連携強化に努める。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる	
	健康増進課		・高齢者の一体的実施のワーキング会議に参加 ・保健師連携会議に参加 ・地域職域連携推進会議（守口保健所管内）に参加	今まで各課でそれぞれに取り組んできた健康に関する事業を課を超えて改めて整理し、重複している部分を見直し、限られた人員の中でより効果的に事業を実施できるようにする必要がある。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる	
	障がい福祉課		保健、福祉、教育の行政機関や障がい児者の関連する機関や事業所等で構成されたやサブ協議会の下部組織として、各専門部会があり各々、情報共有や課題などを話し合っている。 主に令和4年度は「発達障がい者地域支援力向上事業」を大阪府より委託されたアクト大阪に助言を受けながら障がい児者の課題抽出に取り組んだ。	ライフステージが変化する場合の情報共有の在り方や障がい手帳を持っていない人や支援が途切れた児童等へのフォローの在り方などが課題にあげられた。これらの関係機関にまたがる課題を共有をした上で連携を密に図り、課題解決にむけて検証し取り組んでいく。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる	

【参考資料 門真市第4期地域福祉計画進捗状況シート（全体）】

【施策の方向性】  
 生活の中で課題を抱える世帯では、ひきこもり、8050問題、ヤングケアラーなど、さまざまな課題を複合的に抱えているケースが多く、また、現行の制度では対応が困難など、いわゆる「制度の狭間」のケースもあります。  
 複雑化・複合化した課題や「制度の狭間」の課題を抱える個人や世帯に対しては、アウトリーチによる早期発見やそれぞれの分野の専門職による個別の支援、また地域住民やボランティアなども関わり、課題ごとの柔軟な支援が必要です。福祉の分野を超えて、市役所内の関係各課・専門職・地域住民・関係機関が連携し、協働することで、あらゆる困りごとを受け止め、対応できるような支援体制づくりを進めます。  
 また、支援を拒否する人やすぐに解決することが難しく、時間を要する場合は、つながり続けることをめざす併走型の支援が求められていることから、関わり続ける支援を行います。

基本目標Ⅱ. 包括的な支援体制づくり

基本施策4. 組織横断的な支援体制の整備

取組項目	取組内容	計画書ページ	担当課等	令和4年度取組状況・実績等	課題・改善点	今後の方針	評価
		50	こども政策課	教育委員会や子育て支援課などをはじめ市内各課との連携はもとより50を超える企業と連携を行い様々な角度から子どもを支援している。	情報共有をスムーズに行える仕組みの構築	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
			こども発達支援センター	こども発達支援センターが事務局を務め開催している門真市児童専門会議や門真市児童発達通所支援事業所連絡会において、各関係機関と様々な課題の解決に向けての議論や取り組みをすすめた。令和4年度の実績として、門真市児童専門会議は6回、門真市児童発達通所支援事業所連絡会は8回開催。	引き続き、縦割り型の組織では解決できない複雑化・複合化した課題を、各関係機関と横に繋がりをしながら、情報共有に努め課題解決を図るための仕組みづくりを進めていく必要がある。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
			高齢福祉課	個別ケースにおいて関係各課へのつなぎ、役割分担をしながら支援を行う等の連携を図り、対応をしている。	個別ケースにおいての情報共有や連携等の取組は出来ているが、課題解決のための仕組みづくりの検討までには至っていない。	3：改善	B：取組が遅延している
			人権市民相談課	人権相談をはじめ、各課で実施している各種相談について集約した「各種相談のご案内」を作成し、相談体制を周知し、市民への利便性を図った。	引き続き、相談体制も含め、関係各課との協力体制を保持、強化するように努める。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる

【参考資料 門真市第4期地域福祉計画進捗状況シート（全体）】

【施策の方向性】  
 生活の中で課題を抱える世帯では、ひきこもり、8050問題、ヤングケアラーなど、さまざまな課題を複合的に抱えているケースが多く、また、現行の制度では対応が困難など、いわゆる「制度の狭間」のケースもあります。  
 複雑化・複合化した課題や「制度の狭間」の課題を抱える個人や世帯に対しては、アウトリーチによる早期発見やそれぞれの分野の専門職による個別の支援、また地域住民やボランティアなども関わり、課題ごとの柔軟な支援が必要です。福祉の分野を超えて、市役所内の関係各課・専門職・地域住民・関係機関が連携し、協働することで、あらゆる困りごとを受け止め、対応できるような支援体制づくりを進めます。  
 また、支援を拒否する人やすぐに解決することが難しく、時間を要する場合は、つながり続けることをめざす伴走型の支援が求められていることから、関わり続ける支援を行います。

基本目標Ⅱ. 包括的な支援体制づくり

基本施策4. 組織横断的な支援体制の整備

取組項目	取組内容	計画書ページ	担当課等	令和4年度取組状況・実績等	課題・改善点	今後の方針	評価
分野を超えた組織間連携	門真市消費者安全確保地域協議会	50	産業振興課	「門真市消費者安全確保地域協議会」については、弁護士、警察、福祉関係機関、庁内関係課などで構成されている。協議会を2回開催し、高齢、障がい、認知症などにより、判断能力が十分でない人の消費者被害の情報について、構成員間で情報共有を行った。また、研修会を1回開催し、高齢者・障がいの消費者被害の具体事例をもとにグループワークを行った。	新たな手法や視点での取り組みを検討する必要がある。また、研修会については、研修内容や対象者などについて検討する必要がある。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
	門真市障がい者地域協議会	50	障がい福祉課	地域協議会は、学識者、医療、保健、福祉、教育に関連する機関の代表者や関係団体の代表者及び行政職員で構成されており、年に2回開催し、ネットワークの構築の強化を図った。 【第1回】 ①令和3年度の相談支援事業実施状況や障害者虐待防止法に係る対応状況や障害者優先調達推進法に係る取り組み 【第2回】 ①地域生活支援拠点ジェイエスの運営及び日中サービス支援型グループホームの運営に関する評価 ②令和3年度障害者差別解消法にかかる本市の対応状況について ③障がいの理解啓発・理解促進について	引き続き、障がいの理解啓発・理解促進に向けての取り組みを実施し、関係機関との連携をし、ネットワーク強化をさらに進める。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
	門真市要保護児童連絡調整会議	50	子育て支援課	月1～4回の実務者会議、年1回（8月開催）の代表者会議において、関係機関との連携や情報共有を行い、支援体制の構築に努めている。市内小学校2校にてCAPプログラム（子どもへの暴力防止プログラム）を開催し、子ども自身もつ権利について啓発を行った。また、主に子どもに直接関わる関係機関に向けて研修を実施したほか、各相談員のスキルアップをはかる研修へも積極的に参加した。	令和4年度の児童虐待に関する相談件数は1,118件であり、前年度（1,115件）とほぼ横ばい状態になっている。令和4年度より就学前教育機関との要保護児童等について文書での情報共有を毎月行い、支援業務へ生かしている。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
	門真市高齢者虐待防止ネットワーク会議・実務者会議	50	高齢福祉課	高齢者虐待防止ネットワーク会議：年1回 高齢者虐待防止実務者会議：年5回	開催時期・開催回数等検討する。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
	地域ケア会議	50	高齢福祉課	各圏域にて、個別ケア会議を実施し、個の課題から地域課題へ発展させ、市域の解決に取り組んでいる。 個別ケア会議：33回 圏域ケア会議：10回	圏域毎で実施件数にばらつきがある。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
	生活困窮者支援調整会議	50	福祉政策課	月1回調整会議を開催し、相談のあった生活困窮者の状況及び支援の方向性について、関係機関内で共有し、支援策の検討を行っている。 令和4年度：12回開催	相談者を適切な支援に繋げられるよう、多分野・多機関と顔の見える関係を築き、更なる関係機関との連携強化を図る。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
	既存サービスでは対応困難な課題を解決するため、新たなサービス・仕組みづくりを進めるためコミュニティソーシャルワーカー（CSW）が中心となり、関係機関と連携し取り組む						

【参考資料 門真市第4期地域福祉計画進捗状況シート（全体）】

【施策の方向性】  
 地域にはさまざまな人が暮らしており、貧困や疾病、生い立ちやさまざまな生きづらさから、社会的に孤立するなど立ち直りに多くの困難を抱える人が少なくありません。  
 経済的に生活が困難となっている人に対しては、金銭的な支援だけでなく、自立や就労に関する相談支援を行います。また、犯罪や非行をした人には、就労や就学の支援、適切な福祉サービスにつなぐなどの支援を行います。  
 さらに、追い詰められた人が自ら命を絶つという選択をすることのないよう、「門真市自殺対策計画」と整合性を図りながら、関係機関との連携や市民への周知啓発

基本目標Ⅱ. 包括的な支援体制づくり

基本施策5. 生きづらさを抱える人への支援

取組項目	取組内容	計画書ページ	担当課等	令和4年度取組状況・実績等	課題・改善点	今後の方針	評価
生活困窮者への支援	子どもの未来応援チームによるアウトリーチ支援	52	こども政策課	子どもの貧困対策事業として、「子どもの未来応援ネットワーク事業」を平成29年10月から実施し、支援が必要な子ども等の発見から支援までトータルに対応できるネットワークを市民・企業等と構築している。令和4年度に新たに61世帯の支援に着手し家庭環境を改善に取り組んでいる。	「子どもの未来応援団員」登録者数が1500名を超え、情報誌で「子ども食堂」や「宿題カフェ」などの活動を周知したことにより、子どもの居場所で見守りを行う応援団員が増加したことで「子どもの未来応援チーム」に提供される情報も増加した。一方で、コロナ禍においては応援団員からの情報提供数が激減したことから、コロナ禍にも対応できる新たな情報収集方法の検討が必要。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
	相談者の自立に向けた伴走型の支援・就労に不安がある人に向けた社会参加やカウンセリングによる段階的な就労支援	52	福祉政策課	生活困窮者に対する総合的な相談窓口として「生活困窮者自立相談支援事業」を実施し、一人ひとりに合わせた支援計画を作成し、各種貸付や制度を利用しつつ、自立に向けた伴走型の支援を実施している。また、「就労準備支援事業」では、自力での就職が困難な方に対し、日常・社会的自立から就労までを一貫して支援している。	困窮している人が、経済的、精神的に追い詰められてしまう前に支援を受けられるよう、相談窓口の周知に努める必要がある。就労準備支援事業についても、利用者が増えるよう、周知に努める必要がある。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
			保護課	生活困窮者へ市の実施する就労支援等事業及び福祉事務所に設置したハローワークの常設窓口の利用を勧め、必要なカウンセリングや就労支援を行った。	市の実施する就労支援等事業と、福祉事務所に設置したハローワークの常設窓口との密な連携に努め、生活困窮者に寄り添った自立支援体制の充実を図る。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
さまざまな自立支援の促進 (住まい・再犯防止)	大阪府と連携した住まいの確保 (Osakaあんしん住まい推進協議会)	52	都市政策課	・「あんぜん・あんしん賃貸検索システム」に関するパンフレットを窓口で配架することで、周知を図った。 ・住まい探しの相談に対し、Osakaあんしん住まい推進協議会HPの紹介や、市内の登録住宅等の情報提供を行った。	特になし	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
	地域就労支援センターでの就労支援	52	産業振興課	働く意欲がありながら就職が困難な人に、雇用や就労につなげることを目的としたアドバイスや支援を専門のコーディネーターが行った。 延べ相談者数：135人 就労者数：7人	相談者数の増加に向け、地域就労支援センターを周知する必要がある。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
	犯罪被害者やその家族への支援	52	人権市民相談課	・犯罪被害者への支援施策として、市内における犯罪行為による災害に被災したことにより市在住者が死亡の場合は、災害弔慰見舞金（死亡した人1人につき50,000円）を支給できる制度を設けている。 ・犯罪被害者週間について、市ホームページ及び広報紙にて周知を行い、警察庁作成の啓発ポスターを庁内掲示した。	引き続き、犯罪被害者支援施策に関する情報の周知啓発を推進するとともに、各種関連団体との情報共有、連携に努める必要がある。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
	更生の意欲をもつ犯罪をした人等の立ち直りを支援	52	人権市民相談課	令和3年3月に策定した「門真市再犯防止推進計画」に基づき、令和5年2月に再犯防止推進検討委員会を開催し、取組状況の確認を行った。 7月の社会を明るくする運動強調月間、再犯防止啓発月間において啓発活動を実施した。	更生の意欲をもつ犯罪をした人等の立ち直りに向けた支援をさらに進めていくために、庁内及び関係機関との連携をさらに強化し、啓発活動についても、引き続き実施する必要がある。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
自殺防止の推進	さまざまな場面で悩みを抱える人の自殺のサインに気づき適切な支援につなぐ	52	福祉政策課	「門真市自殺対策計画」に基づき、自殺予防に関する施策を実施。門真市社協による役職員向け研修・傾聴ボランティア養成講座・地域力アップ研修会による人材育成を実施。市民相談事業（こころの相談）にて、心の健康に問題を持つ市民向けに臨床心理士による対面相談を実施。「こころといのちのSOSガイドブック」を関係機関に広く配布。	長引くコロナ禍のなかで、令和2年度以降、全国的に自殺者数が高止まりしている傾向があり、更なる対策が求められている。 自殺の要因は多岐に渡るため、誰も取り残されることのない社会づくりを進める観点で、全庁的な対応を促す啓発活動と、関係機関との連携を強化して、引き続き自殺を未然に防ぐ取組を進めていく必要がある。	2：継続	B：取組が遅延している
	さまざまな相談窓口の周知						
	自殺対策の推進【門真市自殺対策計画】						

【参考資料 門真市第4期地域福祉計画進捗状況シート（全体）】

基本目標Ⅲ. 安心・安全に地域で生活できるまちづくり

基本施策6. 権利擁護の推進支援

【施策の方向性】  
 高齢、障がい、認知症などにより、判断能力が十分でないことがあります。そのような人でも権利が守られるよう、成年後見制度や日常生活自立支援事業の利用促進を図ります。また、人権問題について広く周知し、相互理解を深めることで、身近な人権課題に気づき、権利を守る行動をとれるまちづくりを進めます。  
 また、高齢者や障がい者、児童などへの虐待の問題はなくなっていない。虐待の解決のためには、当事者だけでなく、周囲からの支援が重要です。虐待の防止や、早期発見・早期解決のための啓発・見守り

取組項目	取組内容	計画書ページ	担当課等	令和4年度取組状況・実績等	課題・改善点	今後の方針	評価	
地域における相互理解の促進	さまざまな人権課題の啓発	54	人権市民相談課	・人権啓発講座「ともに生きる」の開催。（7月、8月、11月、3月） ・12月の人権週間に、門真市人権協会及び門真市企業人権推進連絡会主催による「ひと・愛・コンサート」の開催に協力を行った。 また、人権週間特集号を作成、広報折込による全世帯へ配布した。 ・門真市人権協会及び人権擁護委員の活動に対し、補助金の交付を行った。	さまざまな人権課題に対し、門真市に住み、学び、働く人々や地域団体、事業者などが、それぞれの役割や責務を自覚し、主体的に行動する指針として作成した。「門真市第2次人権教育・人権啓発推進基本計画」を活用し、各種人権に配慮した行政の推進に取り組むべく、引き続き、啓発活動や人権研修等の開催を行うなかで、新たにSNSを活用した啓発方法を検討するなど、より多くの人に啓発する方法を検討する。 また、関係機関と連携し、引き続き人権意識の向上に努めていく。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる	
	各学校において、多文化共生、ジェンダー平等、同和問題等に関する人権教育の実施及び教員に対する研修	54	学校教育課	各校の人権教育に関する年間計画に基づいた人権教育を実施 教職員向けの各種人権課題に関する校内研修や市教育委員会主催研修を実施	コロナ禍で、校外学習や外部講師招聘に制限があったこと	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる	
	認知症サポーター養成講座の開催（再掲）	54	（再掲）	（再掲）				
	福祉課題（障がい、認知症、ひきこもりなど）に係る意識啓発（再掲）	54	（再掲）	（再掲）				
虐待の早期発見・対応	高齢者虐待の防止、高齢者虐待の被害者及び養護者への支援のため、会議や研修会の開催	54	高齢福祉課	養介護施設従事者等向け研修会：年1回	虐待ケースの相談内容も複雑化していることから、専門職による研修会を実施又は助言を受けるようにする。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる	
	障がい者虐待に関する相談窓口の設置など、早期発見・早期解消・虐待再発防止の取組	54	障がい福祉課	市町村が虐待防止の主たる担い手となり、本市においても、門真市障がい者基幹相談支援センターを障がい者虐待の早期発見や対応を担う機関（門真市障がい者虐待防止センター）として位置づけています。 令和4年度の虐待相談案件数は28件となり、この内10件が虐待認定され、残りの18件が虐待の事実が確認されない、もしくは判断に至らずとなっている。	虐待認定されたケースだけでなく、認定されなかったケースも通報に至るまでの何かしらの原因があるため、多くのケースは基幹相談支援センターや各支援機関によるフォロー体制が構築できている。引き続きフォロー体制の構築を継続していく。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる	
	児童虐待の予防と早期発見、早期援助のため地域や関係機関等と連携	54	子育て支援課	月1～4回の実務者会議、年1回（8月開催）の代表者会議において、関係機関との連携や情報共有を行い、支援体制の構築に努めている。市内小学校2校にてCAPプログラム（子どもへの暴力防止プログラム）を開催し、子ども自身も権利について啓発を行った。また、主に子どもに直接関わる関係機関に向けて研修を実施したほか、各相談員のスキルアップをはかる研修にも積極的に参加した。	令和4年度の児童虐待に関する相談件数は1,118件であり、前年度（1,115件）とほぼ横ばい状態になっている。令和4年度より認定ことも園等の未就学児施設との要保護児童等について文書での情報共有を毎月行い、支援業務へ生かしている。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる	
判断能力が十分でない人への支援	配偶者暴力（DV）に関する相談窓口の設置、対応	54	人権市民相談課	被害者からのDV相談ケースについて、本人から慎重に相談内容を確認し、本人の意思をしっかりと確認した上で、関係機関等と連携・情報共有を図り、対応を行った。	複合的な課題を抱えたケースが多いため、関係機関等との連携・情報共有の更なる強化が必要である。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる	
	社会福祉協議会の日常生活自立支援事業（金銭管理）の周知及び利用促進	54	社会福祉協議会	68人の利用者と契約を締結し、金銭管理サービスを含む福祉サービスの利用援助を行った。また、生活費を届ける支援は2,484回を数え、定期的な生活費を手渡すことで生活の安定を図った。	利用者の死亡や転居等により13件の解約が発生したが、19件の新規契約を行ったため、利用者数は純増した。利用者の増加に対応した支援体制と新規相談を受け付ける体制づくりに努めている。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる	
	高齢者徘徊SOSネットワーク事業の実施	54	高齢福祉課	ネットワークを活用し配信したのは1事例のみ。	くすのき広域連合が解散するため、令和6年度以降、門真市としてどのような形で実施するか検討中。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる	
	認知症初期集中支援チーム（門真オレンジチーム）による早期把握、早期受診	54	高齢福祉課	前年度からの継続ケース2件対応。 定期的（7・8・2月以外）にチーム会議を開催し、対象者への対応方法や、認知症に関する情報共有や地域課題の解決を目指している。	包括や地域から対象者があがっていない。	2：継続	B：取組が遅延している	
【成年後見制度利用促進計画（P.56）】	高齢者や障がい者の権利を守る成年後見制度の利用促進	54	福祉政策課	令和4年中の成年後見制度の申立件数は33件、利用者数は204人となっており、令和3年からほぼ横ばいの状況となっている。また、令和4年度中の市長申立件数は2件に留まっている。	国の第二期基本計画における達成目標として、令和6年度末までの中核機関の整備等が定められており、門真市成年後見制度利用促進計画を踏まえ、地域連携ネットワークづくりを進め、担い手の育成や、市町村長申立等の適切な実施についても拡充していく必要がある。	1：拡大	B：取組が遅延している	
		54	福祉政策課					

【参考資料 門真市第4期地域福祉計画進捗状況シート（全体）】

【施策の方向性】  
個人や家庭での災害時の備えや避難訓練への参加について啓発するとともに、災害時の体制を強化するため、地域住民の組織的な活動を支援します。  
また、災害時や緊急時に自力での避難が困難な人を把握し、避難が必要となった際に地域や行政、関係機関が連携して支援できる体制を構

基本目標Ⅲ. 安心・安全に地域で生活できるまちづくり

基本施策7. 災害時の安心・安全の仕組みづくり

取組項目	取組内容	計画書ページ	担当課等	令和4年度取組状況・実績等	課題・改善点	今後の方針	評価
災害への備えや支援	密集市街地の改善	58	地域整備課	老朽木造建築物等の除却や土地区画整理事業の面整備事業等により、令和4年度末時点で北東部地区（約27ha）及び古川橋駅北地区のうち幸福町・垣内町地区（約18ha）が解消し、門真市内の地震時等に著しく危険な密集市街地が108haから63haに減少した。	面整備事業は地権者の合意形成が前提のため、事業が長期にわたるなどの課題があることから、面整備事業に加え、老朽木造住宅等の除却補助制度を引き続き行い、除却を促進する。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
	防災訓練や防災講話などを通じた防災に関する意識向上、各種啓発	58	危機管理課	市広報紙に防災に関する記事を掲載し、防災意識の向上を図るとともに、市総合防災訓練を実施した他、校区、自治会、地域団体、事業者などにおいて、防災講話や防災訓練を通じて各種啓発を実施した。	市全域で幅広く防災意識が向上するよう、規模の大きな防災訓練や防災講話が実施される状況にしていきたい。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
	洪水時等における避難行動等を定めた避難確保計画の作成等支援	58	危機管理課	いまだ作成に至っていない施設に対して、作成補助等を行い、全施設作成できた。	今後も新たな施設が出来次第、作成補助等を行っていく。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
避難行動要支援者の支援	高齢者、障がい者などの支援が必要な人が円滑に避難するための方策の検討	58	危機管理課	防災講話や防災訓練を通じて自助の重要性など各種啓発を実施するとともに、要配慮者が利用するよう配慮者利用施設への避難確保計画について、作成を促した。	継続して要配慮者に対し、自助を始めとした各種啓発を実施し、防災意識の向上を目指す。また、避難確保計画に基づく避難訓練について、要配慮者利用施設での防災講話等活用し、施設職員、利用者へ啓発していく。	2：継続	A：目標達成に向けて順調に進んでいる
	要配慮者が必要に応じて宿泊施設避難所等に避難できる体制の拡充	58	危機管理課	避難所従事者説明会などを通じ、既に協定を結んでいる福祉施設等の使用方法などを周知した。	本市には指定福祉施設がないため、既に協定を結んでいる福祉施設に対し、指定と合わせて、災害時の運営等についてやりとりをしていく。	2：継続	B：取組が遅延している
	避難行動要支援者名簿の作成・更新及び関係機関での情報共有	58	危機管理課	校区、自治会、地域団体、事業者などにおいて、防災講話や防災訓練を通じて啓発等促した。また、各避難所等に設置している避難行動要支援者名簿の状況確認を行った。	各避難所に置かれている避難行動要支援者名簿を新しいものに差し替えていく。	2：継続	B：取組が遅延している
	個別避難計画の策定	58	危機管理課	庁内会議や関係機関との会議を重ね、今後について協議を行った。	庁内においても、具体的な役割等決まっておらず、引き続き会議を重ね、役割を決め、外部の関係機関とも調整を行っていく必要がある。	1：拡大	B：取組が遅延している
			福祉政策課	大阪府等が開催する研修会に参加し、情報収集に努めるとともに、関係各課と連携し、計画策定に向けて準備を行っている。	避難行動要支援者から計画策定の対象となる優先度の高い要支援者の絞り込みや庁内・庁外の関係者との連携体制を構築する必要がある。	2：継続	B：取組が遅延している

【参考資料 門真市第4期地域福祉計画進捗状況シート（全体）】

基本目標Ⅲ.安心・安全に地域で生活できるまちづくり

基本施策8.すべての人にやさしいまちづくり

【施策の方向性】  
市民の安全で快適な暮らしのためには、安全に暮らせる環境づくりが重要です。生活環境の整備に加え、バリアフリーやユニバーサルデザインの考え方を推進することで、誰もが快適に暮らせるまちづくりを行います。また、感染症対策という観点も踏まえた新しい地域活動として、ICTを活用した非対面方式での活動を進めます。また、子どもや高齢者をはじめすべての人が犯罪や事故に巻き込まれないよう、見守り活動や防犯カメラの設置等を行います。さらに、消費者被害等の防犯に関して意識

取組項目	取組内容	計画書ページ	担当課等	令和4年度取組状況・実績等	課題・改善点	今後の方針	評価
快適で利用しやすい生活環境の整備	ICTを活用し、さまざまな行政サービスを気軽に受けられる環境の整備	60	ICT推進課	公式LINEアカウント情報配信サービス事業(新型コロナ対策)を実施し、スマートフォン利用者を中心に、市民が必要とする情報を効果的かつ効率的に届けるとともに、窓口予約、道路の不具合通報など、生活の向上に関わる様々なサービスをオンライン上で提供することで市民の利便性及び業務の効率化を図った。また、コンビニ交付サービスの対象証明書に、課税・所得証明書を追加した。	・利用者数(友だち登録者数)を増やすための広報活動 ・デジタルに不慣れな方でも利用していただけるような分かりやすい仕組みづくり ・市民が本当に必要としている情報の把握、効果的な発信 ・オンライン申請可能手続きの拡充やさらなるLINE機能拡張による市民の利便性の向上	2:継続	A: 目標達成に向けて順調に進んでいる
	バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進	60	地域整備課 道路公園課	バリアフリー(地域整備課) 京阪電気鉄道株式会社へ本市内全駅への可動式ホーム柵設置の要望書を提出	鉄道施設のバリアフリー化整備については、「鉄道駅バリアフリー料金制度」が国により創設され、京阪電気鉄道株式会社においてもこの制度を活用した料金設定を国土交通省に提出されていますので、今後の動きを注視し、要望活動を継続していきます。	2:継続	A: 目標達成に向けて順調に進んでいる
	みどり豊かな公共空間の創出(新たな公園整備やリニューアル)	60	道路公園課	門真市パークイノベーション計画を策定。計画の中で、リニューアル整備や公共施設跡地の公園整備などについて記載。	なし	2:継続	A: 目標達成に向けて順調に進んでいる
			地域整備課	区画整理事業により公園を整備	なし	2:継続	A: 目標達成に向けて順調に進んでいる
			庁舎エリア整備課	門真市庁舎エリア整備基本構想を作成	なし	2:継続	A: 目標達成に向けて順調に進んでいる
	ごみ出し困難者への支援	60	クリーンセンター業務課	さわやか訪問収集 新規登録者17人、訪問回数 1964回 ひとり暮らし高齢者などの世帯に対し、家庭ごみを玄関先まで戸別に収集に伺い、日常生活上のサポートを行った。	高齢化社会に伴い、今後利用者の増加が見込まれるため、本市の実情を把握しつつ、関係各課との連携・調整、作業人員の適正な配置等制度のさらなる充実化が必要とされる。	2:継続	A: 目標達成に向けて順調に進んでいる
	路上喫煙の防止	60	環境政策課	路上喫煙禁止区域指定(門真市駅周辺)	区域指定に係る関係機関や住民への周知が遅れてしまったため、区域指定の告示までに周知を完了させる。	1:拡大	A: 目標達成に向けて順調に進んでいる
	老朽化した住宅の除却の支援	60	建築指導課	木造住宅除却補助 【実績】 戸建て住宅 15棟 共同住宅 8棟	なし	2:継続	A: 目標達成に向けて順調に進んでいる
	空家等対策の推進	60	都市政策課	・空家等対策計画に基づき令和4年度門真市空家等対策協議会を開催し、計画の進捗状況及び今後の取組内容等について報告した。 ・令和5年3月19日に空き家セミナーを開催した。 ・「門真市における空家等対策に関する協定」に基づいたマッチング制度により、2件契約が成立した。 ・門真市空き家等除却補助制度を改正した。門真市隣接地等取得補助制度並びに門真市子育て世帯等空き家利活用補助制度を創設した。	・門真市空き家等除却補助制度、門真市隣接地等取得補助制度並びに門真市子育て世帯等空き家利活用補助制度における活用実績がなかったため、今後補助要件などの見直しを行う。	2:継続	A: 目標達成に向けて順調に進んでいる
			建築指導課	所有者等に対し適正管理を行うよう指導している。 【実績】 危険家屋等解決件数 15件	なし	2:継続	A: 目標達成に向けて順調に進んでいる
環境政策課			管理不全の空家等について、門真市美しいまちづくり条例の規定に基づき、当該所有者等に適切な管理を施してもらいよう指導等を行っている。 令和4年度実績 空家16件(内未解決3件) 空地10件(内未解決2件)	①所有者等の不明土地等における対応方法について。 ②指導を行っても適切な管理を施してもらえない所有者等についての対応方法。 ③登記簿情報等に係る不明瞭な記載(すでに亡くなっている等)についての対応方法。など	2:継続	B: 取組が遅延している	

【参考資料 門真市第4期地域福祉計画進捗状況シート（全体）】

基本目標Ⅲ.安心・安全に地域で生活できるまちづくり

基本施策8.すべての人にやさしいまちづくり

【施策の方向性】  
 市民の安全で快適な暮らしのためには、安全に暮らせる環境づくりが重要です。生活環境の整備に加え、バリアフリーやユニバーサルデザインの考え方を推進することで、誰もが快適に暮らせるまちづくりを行います。また、感染症対策という観点も踏まえた新しい地域活動として、ICTを活用した非対面方式での活動を進めます。また、子どもや高齢者をはじめすべての人が犯罪や事故に巻き込まれないよう、見守り活動や防犯カメラの設置等を行います。さらに、消費者被害等の防犯に関して意識

取組項目	取組内容	計画書ページ	担当課等	令和4年度取組状況・実績等	課題・改善点	今後の方針	評価
	放置自転車等に関する街頭指導及び移送	60	道路公園課	街頭指導及び移送については、随時行っており、道路を快適に通行できる様、努めた。	なし	2:継続	A : 目標達成に向けて順調に進んでいる
	道路反射鏡、道路照明灯などの設置による安全に歩行できる空間の確保	60	道路公園課	道路反射鏡等の交通安全施設の設置を行い、安全な歩行空間の確保に努めた。	なし	2:継続	A : 目標達成に向けて順調に進んでいる
	地域清掃活動の実施及び市民による清掃活動の支援	60	環境政策課	・「キラッと！かどま2022」市内統一清掃及び清掃月間の実施 市内統一清掃 9/17(土)午前10時～12時 参加者 133名 清掃月間 9/1～9/30 参加団体数 112団体 参加者数 3,461名 ・美化活動団体登録・美化用具貸与 新規団体登録 2団体 貸与件数 4件	「キラッと！かどま」、美化用具貸与で使用する清掃用具について、在庫の状況を逐一確認する。	2:継続	A : 目標達成に向けて順調に進んでいる
	市営住宅のバリアフリー化の推進	60	都市政策課	総数413戸のバリアフリー住戸を有する門真千石西町住宅第9棟及び第10棟の工事「門真市宮門真千石西町住宅第4期新築工事」の契約・着工を行い、令和7年6月30日竣工予定。	今後の工事状況等、公共建築課等と連携し、確実な竣工を目指したい。	2:継続	A : 目標達成に向けて順調に進んでいる
防犯活動の促進	キッズサポーターによる登下校時の見守り	60	教育総務課	令和4年度は259名のキッズサポーター登録があり、地域自治会の協力も得ながら、登下校時の付き添いや通学路また交差点での立哨を行った。	これまでの登録制度(自動更新)では、キッズサポーターの活動への意思確認及び体調面等の把握が十分ではなかったため、従来の登録用紙での申込に加え、ホームページ上に登録フォームを作成し、新規または更新の方に入力してもらおうような仕組みを整備した。	2:継続	A : 目標達成に向けて順調に進んでいる
	防犯に関する意識啓発、防犯カメラの設置	60	危機管理課	防犯カメラの増設(令和4年度50基)及び自治会設置のLED型防犯灯の設置補助を実施し、地域の安全安心なまちづくりへの取組みを実施した。また、防犯キャンペーンを市内小学校にて年3回実施し、防犯意識に対して啓発活動を行った。	防犯カメラの増設(令和4年度50基)及び自治会設置のLED型防犯灯設置補助を実施しておりますが、新型コロナウイルス感染症対策が規制緩和などにより、世間的にも流れが始め、刑法犯罪認知件数増加しているため、新たな意識啓発活動が課題である。	2:継続	A : 目標達成に向けて順調に進んでいる
	消費者被害に関する周知・啓発及び未然防止・早期発見による被害拡大防止	60	産業振興課	市内開催イベントの参加及び相談員による「くらしの講座」を実施した。また、広報、ホームページ、シティナビタ(庁舎入り口付近にあるモニター)、行政情報(市民課待合室のモニター)にて注意喚起を行った。市内イベント参加回数:14回 くらしの講座開催回数:13回	新たな手法や視点での取り組みを検討する必要がある。	2:継続	A : 目標達成に向けて順調に進んでいる
	高齢、障がい、認知症などにより、判断能力が十分でない人の消費者被害を未然に防止するため、「門真市消費者安全確保地域協議会」を運営	60	産業振興課	「門真市消費者安全確保地域協議会」を年に2回開催し、高齢、障がい、認知症などにより、判断能力が十分でない人の消費者被害の情報について、構成員間で情報共有を行った。また、研修会を1回開催し、高齢者・障がい者の消費者被害の具体事例をもとにグループワークを行った。	新たな手法や視点での取り組みを検討する必要がある。また、研修会については、研修内容や対象者などについて検討する必要がある。	2:継続	A : 目標達成に向けて順調に進んでいる
	警察・関係団体と連携した特殊詐欺の周知・啓発活動	60	産業振興課	年金支給日に消費者団体、警察署と連携し啓発物品の配布を行った。配布回数:6回	新たな手法や視点での取り組みを検討する必要がある。	2:継続	A : 目標達成に向けて順調に進んでいる